

KIRI

キリ

Kiri (キリ) 桐		ノウゼンカズラ科キリ属	学名 <i>Paulownia tomentosa</i>
表面状態	環孔材。軽く軟らかく、肌目は粗。木理は通直。		
生育地	本州以南の暖温帯地域に自生し、一般に広く植栽されているが、関東甲信越、東北地方に多い。最近では、アメリカ、カナダ、中国、台湾等で植栽されている。		
材色	心材 淡褐色 辺材 白色 心辺材の差はあまり明瞭ではない。		
重さ	気乾比重 0.30 (g/cm ³) 0.19~0.40、非常に軽軟。日本産では最も軽い。		
強さ	曲げ強さ 35N/mm ² 縦圧縮強さ 20N/mm ² 。		
弾性係数	曲げ弾性係数 15.0kN/mm ² 非常に軟らかい。		
加工性	非常に軟らかく、軽い。加工や交錯も容易、接着加工も容易である。		
耐久性	耐久性は低い、湿気を通しにくく、燃えにくいとされる。		
安定性	狂いは生じにくい。水分に対する収縮・膨潤率は最も小さい。製品後の安定性は良好。		
乾燥性	木材乾燥は容易であるが、アク抜きを適切におこなわないと灰褐色を帯びた材色に変わったり、黒いシミのでることがある。		
塗装性	塗装が容易であるが、材が軟らかいので、硬い塗膜をつけるとバランスが悪い。表面をウズクリ(カルカヤ等を束ねたもので表面を研磨し、凹凸を浮き立たせる)をかけ、光沢を出すことがある。その際にワックス等を併用する。		
同属樹種	コノエギリ(台湾産、 <i>P. fortunei</i>)、タイワンギリ(<i>P. kawakamii</i>)、 タイワンウスバギリ(<i>P. taiwaniana</i>)、シセンギリ(四川省、 <i>P. fargesii</i>)、 チョウセンギリ(<i>P. coreana</i>)他。 日本産のキリはアメリカ、カナダ、中国等に植栽され、大量に輸入されている。コノエギリは南米に植栽されている。		
同名異種	イイギリ(<i>Idesia polycarpa</i>)、アオギリ(<i>Firmiana platanifolia</i>)、 ハリギリ(センノキ、 <i>Kalopanax pictum</i>)、アブラギリ(<i>Aleurites cordata</i>)、 シナアブラギリ(<i>Aleurites fordii</i>)		
用途	キリ材は生長が早く、人家の周辺に植栽されていること等からなじみが深く、さらに材が軽いこと、吸湿・吸水にともなう動きが小さいこと、断熱性が高く、水湿に強いこと、加工しやすいこと等の特徴を生かして、実に多方面に利用されている。 桐箆箆や長持、衣桁、火鉢、軽さを生かした小箱や梱包用桐箱、琴や琵琶等の胴、桐下駄、金庫の内装、羽子板、人形、浮子等多方面にわたって使われている。また、箆箆の内装(抽斗等)は耐摩耗性が相対的に良いので、洋家具にも使われることがある。表面にキリ材を使うものでは、表面の光沢を出したり、キズをつきにくくしたりすることから、ウズクリをかけることがある。		



キリ

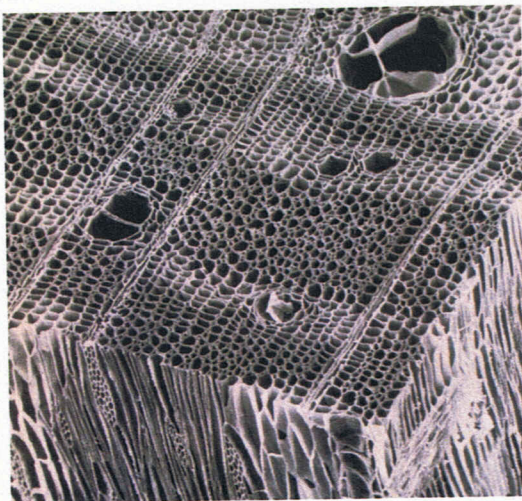
キリ(中国産)

キリ(カナダ産)①

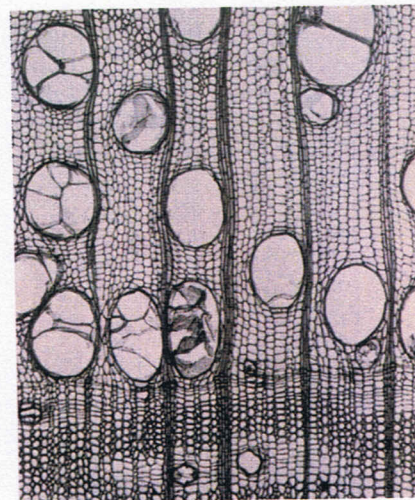
同属の樹種	木材の特徴
ココノエギリ (泡桐、梧桐) (<i>P. fortunei</i>)	台湾には <i>P. kawakamii</i> 、 <i>P. taiwaniana</i> 等も産する。これらを含めて台湾ギリということもある。またこれらは南米にも植栽され、南米ギリとして輸出されている。日本のキリと同様に使われることが多く、日本にも輸出している。
シセンギリ (四川桐、川泡桐) (<i>P. fargesii</i>)	中国中西部の四川省を中心に植栽されている。この他、中国南西部に <i>P. catalpifolia</i> 、中国中北部に <i>P. elongata</i> 、朝鮮半島に <i>P. coreana</i> 等がある。また日本のキリも植栽されており、大量に日本向けに輸出している。日本のキリはアメリカやカナダにも植栽されており、これらも日本に輸出されている。日本ではほとんど区別されずにキリとして流通している。

異種同名の樹種	木材の特徴
ハリギリ 針桐 (センノキ 栓) (<i>Kalopana x pictus</i>)	ハリギリ属は1種類だけで、日本全土、中国、台湾、樺太、朝鮮と幅広く分布している。葉が大きく枝に針があるので、ハリギリとされているようである。材は有用な環孔材で、少しキリ材に似た木理がある程度である。比較的軽軟で木目がケヤキやニレに似ているので、代用とされる場合があり、化粧合板も栓合板として大量に作られている。
シナアブラギリ (<i>Aleurites fordii</i>)	中国産のアブラギリで、日本産のアブラギリ(<i>Acordata</i>)もある。トウダイグサ科アブラギリ属に分類される。樹木の樹形や葉や実がキリに似ており、果実から油を採るのでアブラギリとされた。材は散孔材で、比較的軽軟であり、一部下駄にも使われることがある。果実から採取する桐油は油脂の中で乾燥が早く、耐候性もあるので、自然塗料等に用いられている。アブラギリ(日本)の炭は駿河炭と称して、漆器や銅板の研磨用に特用されている。

キリ材はほとんどが栽培されているもので、日本以外にも中国や台湾、北米、南米等で植栽され、日本に輸出されています。キリ材は非常に軽軟(気乾比重0.30)であり、狂いや割れも少なく、加工性は極めて容易で、接着性も良好です。釘も金釘ではなくウツギの木で十分に打ち込め、釘着生も良好なので、昔から木釘がつかわれてきました。吸湿・吸水性に優れていて、箆筒等の内装材に適しています。また、熱伝導率も低く、燃えにくいので、金庫の内装に最適とされています。日本では箆筒(桐箆筒)や箆筒の内装等に多用されていますが、吸湿・吸水性の良さを生かし、軽量で、移動が容易であることから、昔から広く使われてきました。その他、下駄(桐下駄)、琴、羽子板等、幅広く利用されています。キリ材の表面はウズクリをかけると光沢が出るので、桐箆筒では、ヤシャダマ(ヤシャブシの実を抽出した液)を塗布し、ワックス(カルナバワックス等)でウズクリをかけて磨きあげる手法が使われてきました。



キリ走査型電子顕微鏡写真



木口の顕微鏡断面